

# 参考にしよう! 身近な学問・書籍

Clin Occup Ther

編集担当 灘 裕介

臨床**作業療法** 

作業療法における臨床の拡がりと その分析への学問応用	灘 裕介 ———————————————————————————————————	- •15
鯨岡峻氏の「間主観性と相互主体性」 知見を参考に作業療法する	<b>の</b> 小松 則登 —————	- ●18
「こころ塾」から得られた知見を 参考に作業療法する	松島 佳苗 ————	- •24
池谷裕二氏の知見「のうだま」を 参考に作業療法する	古野 優子 ————	- •28
経営学を参考に作業療法する	寺門 貴 ————	- •33
生態心理学を参考に作業療法する	松田 哲也————	- •38
スピリチュアルケアを参考に 作業療法する	田尻 寿子 ————	- •43
今ある言葉や数字で世界を 切り取るということ	増埜 文恵 ————	- •50

#### 烈闘作業療法

人間力の	源流	を	探	る
(関谷	宏美	*	h.	) –

	ADL 潜考と実践 移動動作への介入	楠 将二郎 ———	— ●56
連載	病棟リハの在宅での活かし方 訪問リハを経験して 一今、病院で働くセラピストに伝えたいこと	伊藤 玲 ————	— ●61
	アクティビティの実践講座 ジグソーパズル	高橋 宏 ————	<b>—</b> ●74
	らんどまーく 雲外蒼天―自分スタイルで常に学び続けること	松浦 篤子 ———	—— •6
	【新連載】しっちょきよえ! 地域ケア会議の常識 地域ケア会議にデビューするけん	児玉 隆典,他 ——	
	女性 OT ひとりで悩まないで みんな「ひとり」ではなくなった	宇田 薫 ———	— ●68
	なんでもできる 100 均グッズ 片手でできる調理動作の工夫	久世 昭宏,他 ——	<b>— ●</b> 70
ゴラム	新人OTあゆみちゃんの回復期リハ病棟記 大切な作業を知ろう	吉川 歩	— •72
	OT として私が大切にしていること 臨床実習指導への想い(願い)	鍜治 実 ————	•78
	編集部が見つけたトキメキ発表 ●第51回 日本作業療法学会 高齢者の階段昇降を支援する電動手すりの開発		
	一斜面市街地の住民参加型の評価と反復設計	北島 栄二 ———	
	子育て復帰と就労を目指したシングルマザーの 1 例について	中林 智美, 他 ——	— ●84

作業療法周辺のニュース ―――	
はじまりのことば…川口 淳一 ——	—●巻頭頁
カメラマン川 <b>上哲也</b> の見た世界 —	—●目次前
インフォメーション	65
既刊案内 ————	80
訂正とお詫び	
次号予告 ————————————————————————————————————	90

【表紙の言葉】

大地の引力が目に見える。

この命を育んだ毛細血管は 360 度, 地中深くに張り巡らされていた。

サツマイモの全容が表れるのに10人で20分。 大物だぁ~!

初夏に植えた1本の茎。

土と水と太陽は私達にこんな感動を与えて くれる。

そして人の手と火が加わると、誰もが笑顔になる感動の美味しさ!

大地の神様ありがとう! (関谷宏美〈甲州リハビリテーション病院〉)



# 

# 人間力の源流を 探る

今回取材した関谷宏美さんは、甲州リハビリテーション病院で患者さんと関わりながら、日本ALS協会山梨県支部の運営委員も務めている。さらには、休日には自宅の畑を開放して、地域の人を対象とした農作業および交流会の活動も行っているという。

このようにアクティブながら、どこかホッとする雰囲気もある関谷さん。お話を伺ううちに、そのおおらかなたたずまいは、豊かな感性と確固たる価値観の土壌に育まれていると気づいた。人とのつながりや住んでいる地域のこと、自然の摂理、そして生と死。日々のささやかな気づきから広がる独自の世界観にふれてみた。(編集室)

## 関谷 宏美さん

甲州リハビリテーション病院 OT 25 年目,山梨県出身



# 特集

# 参考にしよう! 身近な学問・書籍

現代社会は情報社会といわれ、インターネットや SNS(sosial networking service)などを通して、 安易に情報を手に入れることができる。安易なので、それを熟考することもなく、受け流してしまうか もしれない。また、情報を臨床とどのように繋げたらよいのかが分からない、 臨床にどのように応用したらよいのか分からないといったこともあるだろう。

さらに、熟練した治療を実践するセラピストからは、その治療背景に存在するいくつかの知見や文献を紹介されるかもしれない。そのような知見・文献を学ぼうとしても、難しくて、さじを投げてしまう方もいるだろう。そこで、作業療法以外の身近な学問・書籍をどのように参考にすればよいのか、それを取り上げるのが本特集である。また、エビデンスはなくとも、確実に臨床実践の効果を感じている、その時の裏づけにも、作業療法以外の学問・書籍は参考にされる。そのような実践例も、本特集で紹介する。

まず総論では、"作業療法"において、"作業療法以外の学問・書籍"を、なぜ参考にするのか、その意義と利点について述べている。その後の項では、臨床(その定義はさまざまだが)への応用を取り上げている。

小松氏は、鯨岡峻氏の「間主観性と相互主体性」の知見を、セラピィに活用されている。本項では、 身体や感覚のやり取りを通して、一方通行的な関わりから、相互交流となる関わりの変容を示している。

松島氏は、自身が所属する研究室が共催している「こころ塾」を通して知見を深めている「自己制御」 に焦点化し、自閉症スペクトラム児に対する作業療法の実践例を報告している。最新の脳科学と臨床を 結びつけている臨床・研究例である。

古野氏は、自身が経験されてきた臨床において、うまくいってはいるが、その理論的裏づけが曖昧と感じていた点に関して、『のうだま―やる気の秘密』(幻冬舎、2008年刊)という書籍に出会い、ご自身の臨床を改めて、「のうだま」の知見を踏まえ整理した例を報告いただいている。

寺門氏は、施設の管理者という立場から、経営学的な書籍を参考に、管理運営と人材育成の、組織に対する取り組み例を記している。OT の年齢別人口比を考えると、今後、人材育成はとても重要なことであり、その示唆は非常に参考になるものである。

松田氏は、生態心理学の知見を治療に活用している例を報告している。対象者への"触れ方"を意識することで、自身が知覚できる情報量が変わり、そのことが結果、治療効果だけにとどまらず、セラピストの熟練にもつながるのではないかと述べている。

田尻氏には、スピリチュアルペインへのケアの視点を作業療法へ活用する報告をしていただいた。スピリチュアルケアは、とても厳かであるが、それに OT として真摯に向かい合うと同時に、チームでの支援を充実させていくことの重要性を述べている。

増埜氏は、人とのやり取りは言葉や数字で表現されるものではあるが、それだけではない、「なんとなく」や「たまたま」を感じ取ることに触れている。それはセラピィの直感といえることかもしれないし、「あいまい」かもしれないが、その重要性を示唆されている。

本特集を読み終えた後、OT には、いずれの学問・書籍でも、役立つのかもしれないという思考に辿り着いていただければ幸いである。作業療法以外の学問・書籍を、いかに自分の中に落とし込み、活用するかも、また OT としての力量かもしれないし、そのことに楽しさを見出していただきたい。

編集担当: 灘 裕介〔(有) あーと・ねっと〕

# 作業療法における臨床の拡がりと その分析への学問応用

Yusuke NADA

#### 灘 裕介

● 侑あーと・ねっと、作業療法士

内容を理解するためのキーワード 創意工夫 学問

#### 作業療法への応用の可能性

- ●他領域の学問が、作業療法に役立つ分析の裏づけになることも多い。
- ●組織運営や場づくりも作業療法であり、そこでも他領域の知見は役立つ。





筆者は、「作業療法の専門性は?」と問われると、「作業・活動分析」と「段階づけ」と答えることが多い。とても抽象的な返答に、他職種の方は首をかしげ、追加の質問を投げかけることも多いが、OTには、同意していただくことが多い。

作業療法の定義は、当然のことながら「理学療法士及び作業療法士法」で定められており、種々の障害に対するリハである。ただ、筆者は、作業療法をリハの中だけに位置づけて捉えるのではなく、もっと幅広いものとして捉えている。その根底は、OT養成校時代に遡る。当時、養成校の先生方が、「あなたたちは、学生生活の中で、私たちの作業療法を受けているのだ」と言っていたことを覚えている。臨床実習においても、スーパーバイザーから、同様のことを言われたことを覚えている。これらの言葉などは、作業療法が、リハの領域だけではなく、人や作業全般を支援することにも活用されると示していたのではないかと思われる。それだけ作業療法は柔軟で幅広いものであると筆者は考える。

# 鯨岡峻氏の「間主観性と相互主体性」 の知見を参考に作業療法する

Norito KOMATSU

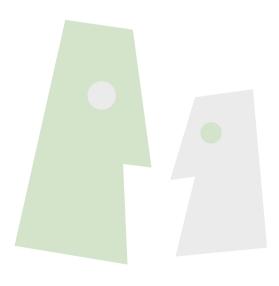
#### 小松 則登

●愛知県心身障害者コロニー中央病院、作業療法士

**内容を理解するためのキーワード ○コミュニケーション ○双方向性 ○間主観性** 

#### 作業療法への応用の可能性

- ●OT は使役動詞を使わずに子どもを語ることが必要だ。
- ●既成概念に捉われない発想が作業療法を豊かにする。
- ●間主観的に身体で響きあう作業療法は子どもも OT も人生が豊かになる。



# はじめに

筆者は医療分野のOTである。日々、1人あたり2単位40分の作業療法を外来・入院と重症心身障害病棟で実施している。その対象者の年齢は生後数カ月の方から成人の方までの障害児・者を全般的に診ている。疾患は脳性麻痺、発達障害、自閉スペクトラム症(autism spectrum disorder; ASD)、遺伝疾患、知的障害、強度行動障害、重度心身障害などである。筆者の勤める愛知県心身障害者コロニー中央病院は、時間や場所が「狭い」中での作業療法を実施しており、地域主流の作業療法の時代に未だ一対一での治療を中心としている。筆者は、医師ではないので薬を処方できず、注射も打てないが、"セラピィ"で治療を行うことが強みである。

筆者は、今、臨床で治療を重ね、自分の技術を 磨く中で、それだけでは何かが足りないが、足り ないこと自体もわからず突っ走っていた時に、ご 縁があって鯨岡峻氏と出会った。

# 「こころ塾」から得られた知見を 参考に作業療法する

Kanae MATSUSHIMA

#### 松島 佳苗

●京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻, 作業療法士

内容を理解するためのキーワード 脳科学 臨床的応用 神経発達症

#### 作業療法への応用の可能性

- ●基礎的な学問(脳科学)を活用することで臨床的な問いに向き合うことができる。
- ●答えを求めるのではなく、臨床を見つめ直し、さらに深めるために基礎的な学問を活用することで、作業療法の効果を追求することができる。



#### はじめに

筆者は、大学で教員として勤務しながら、大学 附属病院ならびに巡回相談などで訪問する地域の 小学校、保育所・幼稚園などをおもな臨床の場と している。作業療法の対象となる子どもと出会う 環境はさまざまだが、OTとして、個々のニーズに 応じた支援を行うことには変わりはない。子ども の反応から子どもを理解したいと願い. より良い 支援が何かを日々模索している。「なぜ、子どもの 反応は変わったのか? 」「子どもの反応の解釈は本 当に妥当だったのか? |. といった問いが次々に 生まれ、この問いと向き合い続けることが必要に なる。問いに対する向き合い方は1つではなく. 映像などを用い丁寧に子どもの反応を繰り返し分 析すること、自分以外の専門家から意見をもらう こと、国内外の文献を調べること、臨床研究を行 うことなどいくつかの方法が考えられる。そのど れもが、問いに対する答えそのものを与えてくれ るものではないが、 客観的に自己の臨床を見つめ なおすことを可能にしてくれる。基礎的な学問と の出会いもそのひとつである。

筆者が現在所属している「京都大学大学院 医学 研究科 人間健康科学系専攻 発達障害系研究室」

# 池谷裕二氏の知見「のうだま」を 参考に作業療法する

Yuko FURUNO

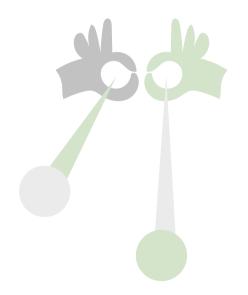
#### 古野 優子

●北九州市立総合療育センター、作業療法士

内容を理解するためのキーワード モチベーション 脳機能 達成感を支える

#### 作業療法への応用の可能性

- やる気を引き出す 4 つのキーワード, "Body" "Experience" "Reward" "Ideomotor" をセラピーで生かす。
- ●OT 自身のやる気も対象者のやる気とシステムは同じ。脳の癖を知って健康に生きよう。



0917-0359/18/¥400/論文/JCOPY

# はじめに

北九州市立総合療育センター(以下、当センター)は、医療と福祉の機能をもつ、発達障害児・者とそのご家族のための場所である。当センターに勤務する OT は、脳性麻痺、二分脊椎症、筋疾患、染色体異常、四肢欠損、自閉スペクトラム症(Autism Spectrum Disorder; ASD)、発達性協調運動症(Developmental Coordination Disorder; DCD)などさまざまな疾患をもつ方々を対象としている。われわれは当センター内では病棟、外来、児童発達支援センター、地域では学校や幼稚園、保育所、保健所健診、対象者の自宅などを臨床の場としている。

筆者が臨床上大切にしたいことは、発達にさまざまな躓きをもつ子どもたちとご家族の生活が、穏やかで楽しいと思える時間になることと、子どもたちが家族にリスペクトされる存在に育ってくれることである。子どもたちが家族内や所属している場所で役割をもち、その役割を果たし、周囲の人々がその成長を喜び誇らしく感じ、それをまた子どもたちが次の糧にできる関係を支えたいと

# 経営学を参考に作業療法する

Takashi TERAKADO

#### 寺門 貴

- ●機能訓練センター フリューゲル, 作業療法士
- ●志村大宮病院 茨城北西総合リハビリセンター

内容を理解するためのキーワード マネジメント 価値の創造 経営学

#### 作業療法への応用の可能性

- ①作業療法を提供するにあたり、クライアント(顧客)だけではなく、組織(チーム)全体のマネジメントをする必要がある。
- ②クライアントのやりたいと思っていることを創造して、一緒に考えながら、価値 観を共有することが大切である。
- ③作業療法のみならず経営学、哲学、社会学など幅広い知識をもつことで心に余裕が生まれ、質の高い仕事を遂行することができる。



#### はじめに

筆者は、リハ科の科長と、障害者総合支援法に おける自立訓練(機能訓練)事業の管理者を兼ね ている。管理者という立場上、クライアントに作 業療法を提供する一方、部門の管理運営も担って いる。現在に至るまで、経験が浅い時期は役職に 就いていなかったため、医学モデル中心の考え方 で臨床に明け暮れていた。しかし、経験を積むご とに係長、科長と業務における役割が変化して いった。その中で、単に対クライアントの作業療 法だけではなく、 どのように作業療法部門の専門 性を見出していくか、あるいはサービスの質向上 のために1人ひとりの戦力をどのように向上させ るか、という対職員の考えの割合も増えていっ た。このように、組織をどのように構築し、その 存在意義を明確にしていくかという。 医学モデル 中心の卒前教育では到底賄えない部分が多く出て きた。また、管理する立場上、経営上の数字を考 えることは避けて通れない部分である。組織の英 知を結集して、クライアントの要望を達成しつ

# 生態心理学を参考に作業療法する

Tetsuva MATSUDA

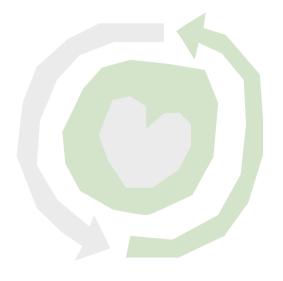
#### 松田 哲也

●JCHO 湯河原病院,作業療法士

内容を理解するためのキーワード ②生態心理学 ②知覚システム ②ダイナミックタッチ

#### 作業療法への応用の可能性

- ●生態心理学における知覚システムについての理解を深めることで、知覚すること と安定することの関係を理解できる。
- ●ダイナミックタッチなど接触のシステムについて理解を深めることで、触診の技術を高めることができる。



#### はじめに

身体障害領域のセラピストは、対象者に触れる ことで治療を行う。触れる目的は、姿勢保持や関 節可動域の拡大. 対象者の低下した筋力を補うた めや動作学習のため、単に筋硬結を解すためなど さまざまである。経験豊かなセラピストになる と、時に、対象者の四肢を動かしつつ、触れた掌 からその動きの滞りを知覚し、重力と支持基底面 に育まれる姿勢筋緊張を巧みにコントロールし、 全身状態をモニタリングしつつ、滞りを改善し、 動作学習を促すというように、いくつもの課題を 同時に行いながら治療を進める。また、その治療 は推論過程において過度に視覚を用いず、掌から 知覚された情報に他の感覚情報を統合させつつ遂 行される。このような治療を、日常の臨床や講習 会のデモンストレーションで目の当たりにするこ とがある。その治療している姿は見ているわれわ れに洗練された美しさを知覚させ、治療を受けて いる対象者も心地良さや充実感を醸し出している。

経験豊かなセラピストは、なぜ、このような治療が可能なのか。触れることで何を知覚しているのか。本稿では、このような疑問の一端を解消することを目的に、生態心理学の学問領域に含まれ

# スピリチュアルケアを参考に 作業療法する

Hisako TAJIRI

#### 田尻 寿子

●静岡県立静岡がんセンター リハビリテーション科, 作業療法士

#### 作業療法への応用の可能性

- ●がん患者に存在しうるといわれているトータルペインの要素には、身体的苦痛・精神的苦痛・社会的苦痛・スピリチュアルペインなど、OT の介入しうる視点がたくさんある。
- ●スピリチュアルペインと認識される患者の深い苦悩には、身体的苦痛・精神的苦痛・社会的苦痛と関連している部分もあり、まずはそれらに対してしっかりとアプローチすることが重要である。
- ●患者が深く苦悩しており、「スピリチュアルペインを有しているのではないか?」 と感じられるが、言語的には主訴として表出されづらい時、意味のある作業活動 を提供することにより、心の奥深くにある考えや気持ちを表現する機会を提供で きる可能性がある。



0917-0359/18/¥400/論文/JCOPY

# はじめに

プロボクサーの村田諒太選手が、「まさかの判定負け」をしたのは記憶に新しい。彼は、各方面の尽力の結果実現した再試合を控えた時の苦悩を、テレビ番組、NHKスペシャル「村田諒太父子でつかんだ世界王座」の中で「(もし次の試合で負けたら)自分のプロボクサー人生を自分の手で踏みにじってしまう、ジ・エンドにしてしまう怖さがありますね。それこそ、アイデンティティーの喪失、自分の存在が消えてしまう、それに対する恐怖感」と表現されていた。その時、筆者もがんセンターで働くようになってから、患者のこの"類"の苦悩に何度も対峙していると感じた。自分は家族の記憶から消えてしまうのではないかという恐怖、愛する子どもたちと別れなければならな

# 今ある言葉や数字で 世界を切り取るということ

Fumie MASHINO

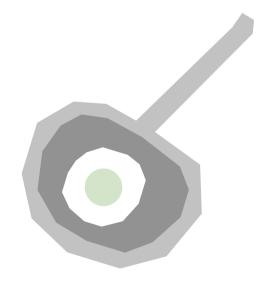
#### 増埜 文恵

● 元 とちぎリハビリテーションセンター. 作業療法士

内容を理解するためのキーワード なんとなく・たまたま リソースとノイズのあいまいさ 複雑なままに扱う

#### 作業療法への応用の可能性

- ●現在自分が使える言葉や数字で記録・考察することに真摯に向き合いながら、同時にこれらで表現しきれない「なんとなく」「たまたま」「感じる」などの要素の価値も考えてみる。
- ●因果にあてはめて物事を表現し続けることによる副作用(定型化・事象の取りこぼし・個別性の無視・未認識のものの排除)に目を向け、未だ認識されていないものを含んだまま作業を生かす。



0917-0359/18/¥400/論文/JCOPY

#### はじめに一言葉と共にあり、同時 に言葉の外にある作業療法

作業体験は圧倒的に豊かだと感じる。何を基準に圧倒的と表現しているかといえば、言葉や数字で表現できるものと比べてである。臨床の現場では、たとえば「MMT(Manual Muscle Test)3」というように現象を区切って表す。本稿では、そのことの意味を改めて考えてみたい。

今ある言葉にすると、こぼれ落ちるものが存在する。今、言葉にならないものがある。それらがまず背景にあり、その中に、今言葉になるものもある。言葉になるものをも内包した、言葉にならない豊かさが「作業することの力」である。しかし、言葉になるものの表現を繰り返すうちに、われわれの認識が逆転してしまうのを感じる。あたかも、言葉になっているもので世界はできていて、言葉にならないものは隠れているかのように。それゆえに、事象を言葉や数字で区切ること

ADL潜考 と実践

第 7 回

# 移動動作への介入

楠将二郎(アシストジャパン訪問看護ステーション)



#### はじめに

今回、「ADL 潜考と実践」をテーマに「移動」について再考する機会を頂いた。筆者は、これまで回復期、亜急性期のリハを経験し、現在、アシストジャパン訪問看護ステーションにおいて訪問リハを中心とする生活期リハを実践している。いずれの時期においても「移動」は大きなテーマとなり、対象者のニードも高く、移動動作の獲得に費やす時間は多いように思う。実際に、在宅において移動手段が確立されているか否かは、生活の質に大きく影響する。本稿では、円滑な日常生活を送るための移動の位置づけについて、OTとしての筆者の考えをお伝えしたい。



#### 日常生活動作と移動

移動とは、「ある場所から、他の場所へ位置を変えること」である。その手段が移動動作で、寝返り、起き上がり、起立、着座、歩行などを指す。 移動動作は、身だしなみを整えたい、用を足したい、きれいな景色が見たいなどの目的とする動作を円滑に遂行するために必要不可欠な動作である。

日常生活動作(ADL)と併せて移動を考える際, その遂行には多様性が求められる。同じ立位を ベースにした移動においても,訓練室内の歩行 と,トイレで用を足すための移動では要求される 課題が異なる。また,寝返りにおいても,ベッド 上で行う寝返りと,和室の布団の上で行う寝返り では課題が異なる。このように,移動に要求され る課題は場面がもたらす環境によって変化するため,作業療法では訓練室内にとどまらず,実践形式での練習が必要である。その際に,実施環境に対する対象者の適応状況を観察しておくことも忘れてはならない。

#### ポイント

- ●移動動作は円滑な日常生活に不可欠である。
- ●移動動作における課題は、目的とする活動 により異なるため、実践形式での訓練は有 用である。
- ●病院 ADL に留まらないために、予定される 退院先の住宅環境の情報も収集しておく。



#### 移動動作に必要な要素とは

前述したとおり、移動動作の課題は場面によって変化する。トイレ動作を例に挙げると、扉の向こうに便器があり、四方を壁に囲まれた環境で動作を行う必要がある。対象者はまず、扉の操作で困難性を感じる。そこからなんとか個室に入ったとしても、眼前に反り立つ壁からは圧迫感を感じ、より緊張を強めてしまう。壁への接近が困難であるため、下衣操作に必要な重心の移動も難しくなるなどの困難性が想像できる。ここで得られた課題は移動空間への不適応として理解できる。移動空間への適応を促すために、視覚情報を整理する必要がある。

視覚情報は「見え」や「きめ」として捉えるこ





# 訪問リハを経験して

# **一今、病院で働くセラピストに伝えたいこと**

# 伊藤 玲

(みかん訪問看護ステーション、作業療法士)

#### はじめに

筆者は臨床経験21年目のOTであり、札幌市手稲区にある脳神経外科中心の札幌秀友会病院で16年間の経験を積み、自前でみかん訪問看護ステーション(以下、「みかん」)を立ち上げてから現在、約4年半のところである。

訪問リハに関しては筆者よりキャリアを積まれている方がたくさんいらっしゃることと思うが、経営も経験してある程度、訪問リハ業務の「何らか」を深められたとの思いもあるので、自分が腑に落ちたその「何らか」について皆様にお伝えできたらと思う。また、OTだけではなくセラピスト全体に対して、また、若い人に限らず、管理者の立場の人にも何かしら感じ取ってもらえたら嬉しく思う。

#### 筆者の起業に至った経緯

本題に入る前に、少しだけ、筆者が訪問リハに 関わるに至った経緯をお伝えしたい。

筆者が「みかん」を立ち上げたのは 2013 年 5 月

である。よく「どうして自分でやるのか?」と聞かれるが、「やりたい」ものに特に理由をつける必要があるのだろうか? と逆に聞きたい気持ちである。しかし、1つ強いて挙げるとしたら、病院で働いていた約10年前に身体を患い、「生きていくためには経営の道しかない」と思うに至ったためであると答えておきたい。

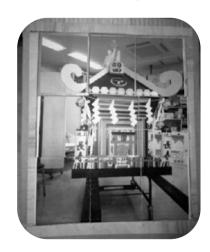
当初,訪問リハの経験がほぼない状態で事業所を始めた筆者は、たくさんの苦い経験をした。今から思えば、そこには経験を積んでいれば回避できることも含まれていた。これから自前で起業したい人は、最低でも1年以上は現場経験を積むことをお勧めしたい。現在、「みかん」では、パートも含めて OT 4 名と PT 1 名の計 5 名のセラピストで訪問看護ステーションからの訪問リハを実施している。

#### 訪問リハをどう捉えるか?

訪問リハについて,勤務先の同法人内で事業所(訪問リハか訪問看護)を所有しているなら,病院である程度の経験を積んでから勤務することはあ

# アクティビティの実践講座 第4回





高橋 宏 (羽田高齢者在宅サービスセンター,作業療法士)

#### ジグソーパズルの特徴

本稿では、前回(本コラム第3回、14巻6号掲載)の「看板づくり」に引き続き、身近にある工作材料と道具および比較的入手しやすいリサイクル資源のひとつである使用済みの梱包用段ボールを使用した、簡便かつ短時間で作成できるジグソーパズルを紹介する。アクティビティの特徴としては、①利用者様が自ら撮影した写真を素材として使用することで作品への愛着が生まれ、活動へのモチベーションが高まること、②パズルを構成するピース(断片)の数・形・裏面の利用(リバーシブル)により、多くの段階づけが可能となること、③段階づけの多様性により、利用者様1人ひとりに適した活動の選択が可能となることなどが挙げられる。

#### 事例紹介

このジグソーパズルは、羽田高齢者在宅サービスセンター(以下、当施設)の方針である "訓練用具は手作りで"を踏まえ、利用者が楽しんで参加し当施設を利用できるよう、作業療法的な要素を加えてアレンジした活動である。当施設はデイサービスで、通所施設であることから、対象者は、デジタルカメラで写真を撮ることができ、ボール紙に写真を貼り付けてそれを切り取れる程度の能力のある方が中心となる。

おもにパズルピース(以下、ピース)を切り取る作業は写真の上下の2分割または上下左右の4分割程度で行っている。認知面では、おもに"図と地の認知"および"構成力の回復"など、身体面では、立位で行うことでの持久力・バランスの回復、つまみ動作の改善など、日常の家事などに役立つ治療的要素を多く含む活動でもある。さらに、利用者がご自分で撮影された施設内外の写真(被写体の選定は OT が援助)ということもあり、モチベーションが向上する効果も期待されることから、本稿にてご紹介することにした。

# Tとして 人が 大切にしていること

OTとなり臨床実習指導に携わるようになってから15年目を迎えます。思い起こせば、数えきれないくらい多くの学生が私のもとで実習に励み、苦楽を共にし、そして巣立っていきました。中には、嬉しいことに私と同じ職場で働くことを希望してくれる学生もいました。私自身、その経験を通じ学生から本当に多くの学びや気づきを与えてもらい、臨床実習指導における、ある方向性を見出すことができました。本稿では、臨床実習指導において私が「OT

本稿では、臨床実習指導において私が「OT として大切にしていること」について思いの まま個人的な思いを書き綴りたいと思います。

### OT

#### 作業療法との出会い

私はもともとPTを志していましたが、受験に 失敗し最後の最後で滑り止めとして受けた作業療 法学科に滑り込むことになりました。それで、授 業では、理学療法学科の学生が床反力計や三次元 動作分析装置で動作分析をしている時に、「なん で俺、土こねてろくろ回してんねん」とヘソを曲 げていたのを覚えています。

そんな、ろくに勉強もせずテストでは毎回のように追試を受ける学生で、ついには学校の先生に「あなた、OTに向いていないから学校辞めたら」と言われる始末。それでも、どうにか長期実習まで漕ぎ着けたものの、実習地に持ち込んだ本といえば『脳卒中最前線―急性期の診断からリハビリテーションまで』(医歯薬出版、第2版1994年刊)のみというやる気のなさ。さらには、急性期の片麻痺の女性を担当したものの、下肢のファシリテーションばかりした挙句、実習最後のフィードバックで「お前はPTにでもなるつもりか?」と言われながらもぎりぎりのところで実習に合格させてもらうことができました。「ほんまはPTになりたいねん!!」と心の中で叫びながらも、PTの実習生とレポートを見比べた時に、OTだけ問題点



介護老人保健施設 老健あこう **鍜治 実** 

#### 編集部が見つけた トキメキ発表

# 高齢者の階段昇降を 支援する電動手すり の開発

#### ─斜面市街地の住民参加型 の評価と反復設計

大会名:第51回 日本作業療法学会

会 場:東京国際フォーラム

日 時: 2017年9月22日~24日

北島 栄二●国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 作業療法学科, 作業療法十

●長崎大学産学官連携推進本部

#### 研究の背景と目的

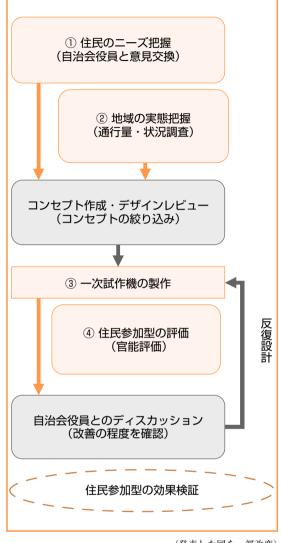
長崎県長崎市は平坦地が非常に少なく、車が進入できない斜面市街地が多い。長く急な階段道を昇降するため、住民は生活道路に多数設置された歩道用ガードパイプを簡易的な手すりとして利用している。しかし、高齢者にとって階段道の昇降は困難を極めており、急激な高齢化にともない、課題は深刻化している。

筆者は文部科学省補助事業(地域イノベーション戦略支援プログラム)のもと、高齢者の歩行支援を目的に、地場企業と共同して2014年に住宅設置型、2015年にガードパイプ設置型の電動手すり(以下、本機器)を開発した。

本稿では、2015年に実施した長崎市での住民参加型の評価と反復設計(人間中心設計)について、研究・開発活動の実践を報告する。

#### 研究・開発活動の方法と結果

活動の実施期間は2015年4月~2016年3月である。住民参加型の評価と反復設計(図1)を実



(発表した図を一部改変)

図 1 ◆住民参加型の評価と反復設計

施した。

#### 1. 住民のニーズの把握

地域住民の代表者(自治会役員)らと筆者,設計者(企業)の3者で意見交換を行い,住民のニーズを把握した。電動手すりの想定ユーザーの特徴(杖歩行の方,手すりが必要な方,荷物を運ぶ方)を設定した。

#### 編集部が見つけたトキメキ発表

# 子育て復帰と 就労を目指した シングルマザーの 1 例について

中林 智美●大阪赤十字病院 リハビリテーション科 (元 わかくさ 竜間リハビリテーション病院 療法部),作業療法士

**牟田 博行●**わかくさ竜間リハビリテーション病院 療法部,作業療法士

#### はじめに

開頭術施行後に受け入れた本症例は、30歳代のシングルマザーであった。ADL·IADL(instrumental ADL)の自立はもとより、母親の役割獲得と就労を目指しての入院である。回復期リハ病棟での5カ月間と、外来リハでの1年間の関わりを通した症例の変化について報告する。

#### 症 例

左前頭葉皮質下出血と動脈奇形による開頭血腫・動静脈奇形除去術後(図1)。家族は父親と、小学生の娘と息子の4人暮らし。事務職として常勤勤務であったが発病後、自主退職していたので新規就労を希望していた。

#### 入院時初期評価

麻痺や感覚障害など、身体機能面での問題は認められなかったがADLが見守りレベルであった。 高次脳機能面では中等度の記憶障害と、軽度の注意力の低下を認めた(表1)。自分の言動が、夢の中のものか現実かの区別がつかないという悩みがあり、早く子どもたちのもとに戻りたいが、迷惑をかけたくないという思いも強かった。

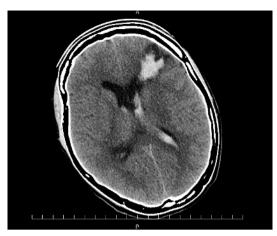


図 1 ◆症例の頭部 MRI 画像(発症時)

#### 経過(1~2カ月)

ADLは1カ月ほどで自立した。調理練習などにより家事動作が自立レベルに達したので、自宅外泊を勧めた。外泊中は行動計画に従って行動したことで、子どもたちと電車利用の外出ができるようになった。院内ではメモリーノート使用の定着を図ったことで夢と現実の区別がつくようになった。また、就労に向けてワークサンプル幕張版(以下、MWS)を用いて間違いやすい箇所を本人と確認し、作業終了時の指差し呼称確認や検算などの対策を講じた。

#### 経過 (3~4 カ月)

症例は外出時,照明の強い店でめまいが起こったり,大きな音のする場所で疲労を感じたりしたことをきっかけに,自身で体調を考慮した行動ができるようになった。外泊時,小学校の運動会に保護者として参加するなど,母親としての役割も十分果たせるようになった。病棟リハの空き時間には,就労を見据えてMWSの自主トレーニングを実施。新規就労先探しでは,条件を子育てを優先するための最低限の内容に絞っても,該当する職場は元職場だけであったため,元職場への復職を決意され,OT は時短勤務や仕事量調整などの助言を行った。自動車運転再開の希望もあったた